

授業科目(ナンバリング)	相談援助の理論と方法 I B (DA207)			担当教員	高島 恭子		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>この科目では、ディプロマポリシーに照らし、学士課程カリキュラムに沿って専門的知識・技能を習得し、それらを国際社会、及び社会生活における様々な課題に適用して解決を図ることができることを目的とする。</p> <p>相談支援に当たりどのように相手と向き合い支援を進めていけばよいかを考え、理解するために、相談援助における人と環境との相互作用に関する理論、相談援助の過程とそれに係る知識・技術について学ぶ。これらに関する専門用語を使いこなせるようになることをねらいとする。相談援助実習の履修を予定する学生にとっては、相談援助演習やその他の科目とともに実習における相談支援のかかわりや支援計画作成の理論的基礎を理解することが必要となる。</p>							①、④、⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<p>相談援助の過程を説明できる。</p> <p>相談援助の過程に関わる基本的用語を説明できる</p>				<p>定期試験 小テスト</p> <p>定期試験 小テスト</p>	<p>20%</p> <p>10%</p> <p>30%</p> <p>10%</p>	
情報収集、分析力	事例を、エコマップやジェノグラムを用いて表現できる				定期試験	10%	
コミュニケーション力	利用者主体の支援計画のためのアセスメントを説明することができる				課題レポート	5%	
協働・課題解決力	個人またはグループでの活動に参加できる				小テスト	10%	
多様性理解力	利用者主体の支援を具体的に説明できる				課題レポート	5%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>毎回復習小テストを行う (30%)。授業を復習し、ポートフォリオによる小テストを提出すること。課題レポートの詳細は授業において提示する。課題において「利用者主体」を尊重できているか、自分の考えを論理的にわかりやすく展開したものとなっているかを評価する。文字数不足、誤字・脱字は減点の対象とする (10%)。小テスト、課題レポートのフィードバックを授業内で行う。定期試験では、相談援助の過程や相談援助に関わる基本的用語の理解の程度を評価する。エコマップ、ジェノグラムの表現技能を評価する (60%)。不適切な授業態度 (教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯到の使用、居眠り等) は発覚した場合、減点の対象となる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分とする。教科書及び配布資料を用い、講義を中心とするが、学生が相互に説明をしたり、意見を交換したりするような個人またはグループでの活動を取り入れる。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 I (第 3 版)』中央法規、2015 年。</p> <p>参考書：特に指定しない</p> <p>指定図書：木下大生、藤田孝典 (2015)『知りたい！ソーシャルワーカーの仕事 (岩波ブックレット)』、岩波書店。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>授業内で行う個人またはグループでの活動には積極的に参加すること。さらに、社会福祉関連の行事やボランティア活動に参加したり、関連する映画、番組、図書、新聞などを見たり読んだりして、関心の幅を広げることを期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	オリエンテーション。科目の目標、進め方、テーマを理解する。「相談援助」とは何か考え、学ぶ	相談援助とは何か考える 授業の進め方を確認する
2	相談援助の基本的枠組み (1)	「人と環境の相互作用」とシステム理論、相談援助の働きかけを学ぶ	予習として、第2章、第3章を読む
3	相談援助の基本的枠組み (2)	相談援助における援助関係を学ぶ	予習として、第4章を読む
4	相談援助の過程 (1)	相談援助の展開過程の流れについて学ぶ	予習として、第5章第1節を読む。相談援助の展開過程を示す用語を復習する
5	相談援助の過程 (2) 受理面接(インテーク)	受理面接(インテーク)の意義、目的、方法、留意点について学ぶ。「クライアントになる」ことを考え、学ぶ	予習として、第5章第2節、第3節を読む
6	相談援助の過程 (3) 受理面接(インテーク)	問題把握、ニーズについて考え、学ぶ。相談援助における契約を学ぶ	予習として、第5章第4節、第8章を読む
7	相談援助の過程 (4) 事前評価(アセスメント)	事前評価(アセスメント)の意義、目的、方法、留意点について学ぶ	予習として、第5章第5節、第6節を読む
8	相談援助の過程 (5) 事前評価(アセスメント)	アセスメントの視点、活用される技術を学ぶ	予習として、第9章を読む
9	相談援助の過程 (6) 支援計画 (プランニング)	支援計画 (プランニング) の意義、目的、方法、留意点などについて学ぶ。支援標的、目的設定について考える	事例をもとに、アセスメントから支援の方針を立てる(レポート:詳細は授業にて提示)
10	相談援助の過程 (7) 支援計画 (プランニング)	介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画について理解する。支援方針・内容の説明・同意について学ぶ	予習として、第5章第7節、第8節を読む
11	相談援助の過程 (8) 支援の実施、介入	介入(インターベンション)の視点、活用される技術を学ぶ	予習として、第10章を読む
12	相談援助の過程 (9) 経過観察、支援の終結	支援の実施、経過観察(モニタリング)、再アセスメント、支援の終結の意義と条件について学ぶ	予習として、第6章を読む
13	相談援助の過程 (10) 効果測定	効果測定の意義、視点、方法について学ぶ	予習として、第11章を読む
14	相談援助のための記録	記録の意義と必要性、技術、記録の保存について学ぶ	予習として、第13章を読む
15	まとめ	人と環境の相互作用という捉え方を基盤とした相談援助過程と各過程の意義、目的、方法、留意点を理解する	全体を振り返り、相談援助の過程や相談援助に関わる専門用語を復習する
16	定期試験		